



菅波 茂

2000年11月28日、カンボジアの首都プノンペンで、AMDAの「魂と医療」プログラムの合同慰霊祭が、王宮のそばにあるウロナム寺院で行われた。参加者は日本側の佐藤和尚さんやAMDA関係者、この寺院の僧りよである。「魂と医療」のプログラムは第二次世界大戦中に他界した日本人と現地の人たちの慰霊、現在生きている人たちの健康推進が目的だ。このウロナム寺院には広島ポランティアグループが「広島ハウ

カンボジアの「エイズの家」

「ス」を建築している。「広島ハウス」では原爆の悲惨さの体験を基に、平和をアピールすることにも、宿泊施設を備え、日本の若者たちのボランティア活動を支援する。石山修武・早稲田大教授は建築学の専門家で「広島ハウス」の設計、建設に携わっている。私と石山教授はこのウロナム寺院境内に「エイズの家」を設立することで合意している。今、カンボジアではエイズが猛烈な勢いで苦しんでいる。この患者にやすらぎと治療の場をウロナム寺院内に提供しようというのである。カンボジアは小乗仏教の国であり、国民は熱心な仏教徒。特にウロナム寺院はカンボジアで一番權威のある寺院。この境内にエイズ患者の場ができれば、死を迎える仏教徒にとって最高のやすらぎが得られ、エイズへの偏見と差別も改善されるだろう。

「エイズの家」にはAMDAカンボジア支部が治療を提供する予定になっている。日本からも多くのボランティアの参加を期待したい。

(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)

増え、しかも患者は偏見と差別に